

いっしょにあそぼ！

- 日時 令和6年9月29日(土) 9:30~13:00
- 会場 板橋区グリーンホール 101会議室
- 参加数 44組親子(104名)
- 対象 3歳未満の子どもとその家族
- 参加費 無料
- 目的 こどもの最善の利益を第一に考え「こどもまんなか社会」を目指す「こども誰でも通園制度」が始まり、すべてのこども・子育て家庭への支援が必要になっています。

家庭的保育は、小人数で子どもや保護者との距離が近く、0・1・2歳児に特にきめ細やかに保育できる保育形態です。家庭的保育の良さを多くの方々に知っていただく活動の一環として、板橋区の家庭福祉員が子どもたちといっしょに遊び触れ合い、展示説明の場を設け家庭的保育について広く周知を目的に開催しました。

4年ぶりの開催は東京、板橋で

NPO 法人家庭的保育全国連絡協議会主催の「いっしょにあそぼ！」を今年度は東京都板橋区で行いました。コロナの影響で4年ぶりの開催です。

NPO 法人家庭的保育全国連絡協議会に所属している正会員3名がまず賛同し、そのほかに賛助会員として家庭的保育者が5名集まり開催準備が始まりました。



暑い夏のチラシ配り

6月から場所や日程を押さえ、内容を考え配布するチラシ作りから始めました。チラシは、8月に行われた区役所主催の幼稚園入園ガイダンスでお配りした他、児童館、図書館などにおいていただきましたが、今年の夏は猛暑でお散歩もあまりできず、十分に配布できなかったのもので、当日どのくらいの方がきてくださるか予想がつかせませんでした。

開催に向けて届け出

チラシ配りのために警察署へ何度か出向き2箇所の道路使用許可書をもらいました。行事保険の加入申請のためにボランティアセンターへも出向きました。平日しか窓口が対応していないために、代金の振り込みなどもあり、お昼寝のときに補助者さんたちに協力してもらい何度もあちこち走り回り、前日準備で会場設営を行いました。

当日を迎えて

当日は薄曇りの天気始まり、ちょうどチラシを配り終えたあたりのお昼頃に小雨が降り始め終了時に本降りとなりましたが、参加者の方々にはそれほど影響がでませんでした。

参加者予約を行わなかったため、NPO からお手伝いに来てくださった8人の方々が、公園や最寄り駅などでチラシ配りをしてくださり、当日チラシをもらった親子連れの参加者もあり、総勢104名44組のご家族が来場され、とても盛況な一日になりました。

家庭的保育の紹介コーナー

板橋区の家庭福祉員を知って頂くこと。家庭的保育の良さを知って頂くこと。ぜひ見学そして来年の申し込みに家庭福祉員のところにも名前を書いて頂けること。この事を頭におき説明をさせて頂きました。

やはり家庭福祉員(家庭的保育)をご存知ない方が多く、できる限り皆さんにわかりやすく丁寧にお話をさせて頂き、質問をたくさんお聞きしました。そして関心を持っていただけたら「ぜひお近くの家庭福祉員さんに見学いらしてくださいと嬉しいです。」とお話ししました。



また、保育園に通っているお子さんの保護者などにもお話をさせて頂き、「板橋区に手厚くあたたかい保育をしている家庭的保育を知って頂き、広めて頂けたら嬉しいです」とお話しさせて頂きました。来て下さった方の中には、板橋区外在住のおばあちゃんや、実家は板橋区だけど自宅は他県の方や既に保育園に通っている方々も結構いらっしゃいました。



ワークショップのコーナー

円形の紙に親指を入れる穴の空いたうちわに、手形をスタンプしたり、紫色の丸いシールを貼ってブドウにしてみたり、マジックで自由に絵を描いてもらったりして、オリジナルのうちわを作ってもらいました！（うちわの裏には、家庭福祉員の宣伝貼っておきました）

親子で一緒に楽しんで、世界にたった一つの素敵のうちわができあがり、大切そうにお持ち帰りになる保護者さんの姿が印象的でした。





子どもたちは、普段家では禁止されているだろう、マジックで思い切りお絵描していました。手形は記念になるので保護者の方も喜んでいました。うちわにお絵描きでは「洗濯で落とせるカラーペン」は好評で「こういうのがあるんですね」と写メを撮る方もいました。

お薦め絵本コーナー

8名のスタッフがお薦め絵本をそれぞれ選び、当日展示して自由に読めるコーナーを設置しました。

最初はあまり人が集まらなかったのですが、NPO 法人の方々が声をかけてくださったおかげで、次第にお子さんたちが来てくれるようになりました。読み聞かせはリズムカルな絵本から始め、お子さんと一緒に座る方や椅子に座って見守る方がいました。



お子さんの反応はさまざまで、1冊で飽きてしまう子もいれば、次々にリクエストをして6冊も読み聞かせをした子もいました。

多くの保護者の方々は、絵本を読んでもらうことを期待されているように感じました。

ゲームコーナー



わなげ・ボールプール・ボブス(運動家具)など身体を使って遊ぶコーナーを設置しました。

靴をぬいであそぶ子どもから目を離す親御

さんが多く、1名体制の配置は厳しく感じたので、途中から2名配置することにしました。怪我なく見守ることだけで精一杯でしたが、子どもたちの無心で遊ぶ姿があり、楽しめるコーナー作りができました。



無料フリマ(フリーマーケット)

多くの方々に参加してもらうために、新しい試みとして、30代の若い家庭的保育者から、無料のフリマ(フリーマーケット)というアイデアがあり実施しました。



参加した子どもたちは、たっぷり遊んだ後、何がいいかなとワクワクしながら選ぶ姿があり、とても好評でした。



アンケート

今回は多くの方に簡単にアンケートを答えていただけるのではないかとQRコードから読み込んで答えていただくかたちにしてみました。残念ながら13名の方からしかお答えがありませんでした。参加して家庭的保育がよく理解できたとの感想が多くあり嬉しかったです。すでに保育園に通われている方からは興味ないとのお答えもありましたが、周知という意味では価値があったと思います。

イベントを終えて

他県から越してきて家庭保育施設を見学希望する方や、2ヶ月の赤ちゃんとお母さん、近くの公園で遊んでいた保育園児とその保護者さんなどたくさんの方に来ていただき、楽しく遊んで皆さん帰りはとてもよい笑顔で帰っていただきました。

家庭福祉員に実際にお子さんを預けているお父様が帰り際に「家庭的保育はとてもいい保育ですね！預けて本当にいい保育だと思っています。多くの人に家庭保育のよさが伝わるといいですね」とお声がけ下さいました。



ほんの短い時間でしたが、ワークショップや遊びの体験の中で異年齢のお子さんと過ごし、発育にあったサポートなど、家庭的育のよさを実感していただけたのではないかと思います。

イベントの次の日に早速参加者から見学希望の電話があり、その効果に喜びを皆で分かち合いました。「来年もやりたいね」という仲間の言葉に、このイベントは大成功だったと確信しました。

細田みゆき